



小畔川

(<http://photozou.jp/photo/show/1190304/201705321>)



入間川

(埼玉県庁 HP より)



あの日のあの川 リレー日記 ～第3話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第3話主人公 井坂 七星

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 4年 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：埼玉県小畔川，入間川)

「川と私の繋がり」

いつのこと？：小中高校生時代

どこの川？：^{こあぜ}小畔川，^{いるま}入間川，Mohican River, Chao Phraya River 等

川は生まれた時から身近な存在だった。幼稚園のすぐそばには土手と川，小学校に上がってもその校庭の目の前には土手と川が広がり教室からの眺めはなかなか良いものだった。小学校の先生方からは他にはなかなかない非常に良い環境だと何度も言われていたが、「そうなんだろう」としか思っていなかった。大学に入ってこのゼミで川や水環境について学術的に学び，さらに川離れが進んでいると言われる現在から当時を振り返ってみれば，あまりに川が身近で生活の一部に自然となっていたあの環境はすごく幸せだったのかもしれないと思う。その後私は何度も引越しを経験し国内や海外の色々な場所を見てきた。その時はあまり気付かなかったが，そのどこにおいても川が近くにあったと今更ながら驚く。それ程人と川の繋がりは想像以上に強いものなのだろう。

【小畔川，入間川】

幼い頃近所にあった川は荒川水系の支流である小畔川と入間川である。いつも誰かしら土手を散歩していたり子供達が遊んだりしていた。夏になると川に遊びに出かけるのがすごく楽しみで，泳いだりザリガニやメダカを捕まえたりしていた。また，幼稚園や学校の授業の一環として川に出かけることも多かった。凧揚げ，図画工作や理科の時間，持久走などで度々出かけていっていた。幼い頃の川の思い出の中でも最も印象に残っている出来事がある。小学校2年生の時のことだ。少し余談になるが，私はその時の担任の先生からのみ，何かする都度怒られると言っても過言ではない程特別な注意を払われていた。これを聞くと私を知っている人は皆驚くと思う。実際悪いことをいつもしていたわけではないのに明らか特別視をされていたので，逆に余程気に入られていたと思うほかない。ある日野外授業で川に出かけることがあり，先生から絶対に川に落ちないようにと注意を受けクラスで出かけていった。私はコンクリート護岸の傾斜に川を背にして座っていたのだが，そこから立ち上がる時に傾斜と重力に逆らえきれず，そのまま背中から川に落ちてしまった。その瞬間，川に落ちる恐怖ではなく，先生からまた怒

られる恐怖しかなかったことをよく覚えている。その時の先生の怒り様と云ったらこの上ないもので、1人で学校にトンボ帰りすることとなった。先生がこの記事を読んでいればまた怒られるに違いない。何故あの時怒鳴られたのかずっと分からなかったのだが、今となって考えてみれば、例え川の流れが緩く水深も浅かったとはいえ身の上を案じてのことだったのかもしれない。

【Mohican River (アメリカ)】

その後アメリカに引越すことになった。そこではまた日本とは違うタイプの川を見ることができた。まずスケールが大きいことが挙げられるだろう。そこで私は毎年夏になると親に連れられ親の友達と一緒にカヌーに行くことが恒例だった。その川はモヒカン川と言ひ、オハイオ川に合流し最終的にはミシシッピ川へと繋がっている川である。各自たくさんの弁当を作り、たくさんのお菓子とビールを買い込み、それらをアイスボックスに詰めて集合。1日中川なのでサングラス、帽子、日焼け止めも必須である。上流から何時間もかけ、途中休憩やランチを挟みながら下っていった。カヌーの上でお菓子を食べたり大人はビールを飲んだりしながら緩々カヌーを漕いで自然の中をゆっくりする。終わると疲労、筋肉痛が恐ろしかったが、川でそうして皆で過ごす1日は最高で、また仲間との絆もすごく深まるのである。

【Chao Phraya River (タイ)】

またタイのバンコクにも住んでいたが、その川も日本やアメリカといった先進国の川とは全く違っていた。チャオプラヤ川は日本でも有名で知っている人も多いかと思う。タイの川と言えば、水質は非常に悪い。直に触れないように気を付けていた。これから環境改善の動きが盛んになっていけばと思う。しかし、一方でタイの人々にとって川は非常に大切に親しまれている。例えば、水上タクシーや水上マーケットなどが盛んである。観光で水上タクシーに乗る人や水上マーケットに行く人も多いだろう。実は水上タクシーには乗ったことがあるものの、私はまだ水上マーケットには行ったことがない。川のゼミにいる人間として今度タイにまた行く時は是非行ってみたいものである。

以上のようにこれまで色々な川を見てきて、その土地に応じて川と様々な触れ合い方をしてきた。その度に川が人に与えてくれる様々なものを発見できたように思う。これからも行く先々で川に注目し、それぞれの異なる特徴や川の側面を発見できることを楽しみにしていきたい。

(次は川畑遼介さんにバトンを託します)



